

子どもの思いの芽をはぐくみ、 豊かにつなげることによる 円滑な接続を目指して

さわの里地区



(2) 推進内容

- 年間2回の推進委員会
(6月26日 3月上旬(予定))
- 自分たちの「思い」を形にしたいという「子どもの願い」
から生まれた交流活動



(1) 推進テーマについて

園にも学校にも、「子供たちには、いつも自分のよさや可能性を信じてほしい。」という願いが根本にあります。

そうした子供時代を生きることが、その後粘り強く挑戦したり、日々の生活を前向きに創り出したりと、幸せな未来を思い「希望」をもって人生を生き、社会をつくる人としての成長につながるのではないかと考えました。

そういう生き方の基になるような、土台づくりを目指した幼保小連携を進めていきたいと考え、このようなテーマにしました。



(3) 交流活動の実際

- 1年生の子どもの「思い」の出発
もうすぐ小学校初めての運動会。
ぼくたち、わたしたちは、入学する前にさわの里小学校の運動会に行くことができ【メダルをゲットだけ(未就学児によるかけっこ)】に参加できて楽しかったのに、今年の幼稚園、保育園の子たちはそれができない。
かわいそう。なんとかしたいな。何かできないかな。
そうだ!メダルを作ってプレゼントできないかな。



○1年生から「思い」の発信

～上中里幼稚園とつくしんぼ保育園へ

紙粘土メダルとお手紙を～



「来年の運動会はいっしょにがんばろうね。」

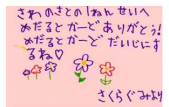
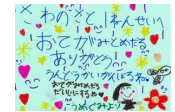
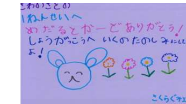
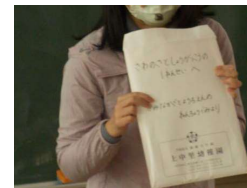
「1年生になったらいっしょに遊ぼう。」

○上中里幼稚園・つくしんぼ保育園から

「思い」の返信

「ありがとう！」「学校に行くのを楽しみにしているよ！」

「『ありがとう』って言うてくれてる。うれしい！やった！」



○1年生からもっと思いを発信しよう

～学校案内カードをつくってプレゼントしよう！～

「もっと何かできることはないかな？」

「ぼくたちは、入学前に学校に来ることができたけれど、今度の1年生はできない。だったら、学校案内カードを作ってわたして、『学校は楽しいよ』『安心してね』って教えてあげよう。」



○「学校はこんなこともできるところだよ。」

という「思い」の発信

～いっしょに楽しめたかったのは、

竜になって音楽にのって遊ぶこと～

「ほんとうはいっしょにやりたかったけれどできなかったから、写真を送るね。学校は楽しいところだよ。」



(4) 成果と課題

○成果として考えられること

- ・コロナ禍ということで、あらためて「つながり」という視点に立って、幼保小連携の大切さを感じることができた。
- ・子どもの側に立って考えることの大切さ、もっと地道なところからできる小さな事柄の数々も見えてきた。

○課題として考えられること

- ・どうしても担当者中心の取組になりがちなので、学校全体、園全体での取組としていきたいところ
- ・今後に向け、既成のものにとらわれず、新しい発想アイデアを生み出す必要があるところ

